

# 寒小ギク新品種 'No.3' の品種特性

## ●はじめに

寒小ギクの需要が低迷するなか、12月上中旬咲きで消費者指向に対応した色、草姿等を備えた品種が望まれている。そのため、寒小ギクとスプレーギクを交配し、県下の露地条件にあった赤系で、新しいタイプの草姿を示す寒小ギクの育成を目標として取り組んできた。ここでは、品種登録を申請する予定にしている新品種 'No.3' についてその育成経過と特性を紹介する。なお、この試験は県農協連合会との共同で行ったものである。

## ●育成経過

平成3年に寒小ギクの赤系統 '姫小町' に紫桃色のスプレーギク (品種名不明) を交雑して141個体を得た。平成4～6年にかけて、暖地園芸センター露地ほ場で赤系の12月上中旬開花の2系統を選抜した。さらに、平成7～9年に特性検定及び生産力検定を行い、目的に適合した系統 'No.3' を選抜した。

## ●品種特性と栽培上の留意点

- ① 6月下旬に定植した場合、開花が12月上中旬となる。年度により差がみられるが '姫小町' に比べ、25日程度開花が早くなる (表2)。
- ② 花色は、花弁が赤紫、花芯が穏黄緑である。



図1. 花色及び花型

また花径は、4.2cmで、'姫小町' よりも1cm程度大きい (表1)。

③ 花型は、半八重であり、外周部の花弁が開いた後も中心部の花弁が立ち「盃型」、花型の乱れが生じない (表1)。

④ 草丈は、119.1cmと '姫小町' に比べ25cm程度長く、草姿が異なり1本当りの側枝数が多く、側枝長も長い (表2)。

## ●おわりに

本品種は既存の小ギクに比べ、全く草姿が異なり、長い側枝が数本とされるため、現在の市場および消費者ニーズに応えられる。また、今までにない新しいタイプの小ギクをプラスすることにより、県内小ギク産地の維持、発展に役立つと思われる。 (育種部 里村博輝)



図2. 草姿

[表1] 'No.3' における形状及び花色

系統	花径 (cm)	花芯径 (cm)	花色	
			花弁	花芯
No.3	4.2	0.9	赤紫	穏黄緑
姫小町	3.1	0.9	穏紫桃	鮮燈黄

(注)定植：平成7年6月26日 暖地園芸センター露地ほ場で栽培

[表2] 'No.3' の生育開花特性

系統	開花日 (月日)	草丈 (cm)	切り花重 (g)	収穫本数 (本/m <sup>2</sup> )	有効花蕾数 (個)	1本当り側枝数 (本)	側枝長 (cm)
No.3	12/01	119.1	94.0	50.4	23.6	4.3	65.9
姫小町	12/25	93.8	66.4	50.4	21.9	1.5	46.7

(注1)定植：平成9年6月26日 日高郡日高町露地ほ場で栽培

(注2)切り花重：80cmに切り戻し測定：側枝数45cm(S)以上の本数、側枝長：最長の側枝